

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 香川県グリーン農業コンソーシアム
都道府県 香川県
対象地域 香川県東讃地区（高松市、東かがわ市、さぬき市）
中讃地区（坂出市、まんのう町）
対象品目 ブロッコリー、キャベツ、ナバナ（露地）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

ブロッコリー、キャベツ、ナバナ等のアブラナ科野菜は、本県農業の主要品目の一つである。これらアブラナ科野菜に特有の土壌病害である根こぶ病の発病が見られ、解決すべき課題の一つである。現状は、土壌診断結果に基づく根こぶ病管理の香川県版マニュアルは作成されているものの、防除暦に基づくカレンダー防除が行われている。しかし、従来のカレンダー防除では防除対策が過剰になっている場合もあるため、圃場一筆ごとに土壌診断の結果から発病リスクを診断した上での対策を講じることで、土壌処理剤等の農薬使用量を低減を目指す。併せて、薬剤の育苗期セルトレイ処理による本圃での農薬散布削減と省力薬剤処理を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名					育苗	定植	追肥・中耕					収穫	
技術名					薬剤土壌処理		薬剤散布処理						

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名					育苗	定植	追肥・中耕					収穫	
技術名		発病ポテンシャル診		薬剤セルトレイ処	土壌酸度検								

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

		現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	ブロッコリー	853	853	
	ナバナ	46	46	
	キャベツ	30	30	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	ブロッコリー	3.4	15	
	ナバナ			
	キャベツ		0.1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	ブロッコリー	3.4	20	
	ナバナ	0.3	0.6	
	キャベツ	0.1	0.1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	ブロッコリー	4.8	15	
	ナバナ			
	キャベツ		5	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要
〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	地域の防除暦によるカレンダー防除	▶ 人工知能による圃場の発病ポテンシャル診断・対策支援システムによる土壌病害管理	防除要否判断による過剰防除の削減
環境 省力	地域の防除暦によるカレンダー防除	▶ 土壌酸性矯正による継続的な根こぶ病防除	本圃での防除作業の削減 化学合成農薬の使用量削減
環境 省力	育苗セルトレイ処理は、一部害虫防除に対して実施	▶ 育苗期の薬剤のセルトレイ処理による菌核病の防除	本圃での農薬散布回数削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	本圃での菌核病に対する農薬散布回数（回）	2	▶ 0	
環境 省力	本圃での根こぶ病に対する農薬散布回数（回）	1	▶ 0	
環境 省力	防除要否判断による過剰防除の削減（％）	44	▶ 20	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

グリーンな栽培体系の周知・情報発信、栽培マニュアルに基づく技術指導を行う。

関係者の役割

関係者名	農業試験場	農業改良普及センター		
役割	グリーンな栽培体系の周知・情報発信栽培マニュアルに基づく技術	農業試験場と連携した栽培マニュアル		